

「おしゃべりサロン」

アソカ幼稚園長 小林 淳

アソカの園庭に花壇が出来ました。その花壇に父母会園芸部の皆さんが花を植えてくださいました。アソカ樹の表示板も作ってくださいました。大変にありがとうございます。

10月28日に父母会主催で「おしゃべりサロンの会」がありました。アソカ・和光の保護者がたくさん集まってくださいました。そこでの話をご紹介させていただきます。



★「心の強い子どもに育てるには」

- ・ 自己有用感(自尊心) を豊かにしてやる。
- ・ 経験・体験をたくさん積みさせる。ふれあい人そして自然とのふれあい。人とのふれあいは、コミュニケーション能力。支え合う大切さを知る。一人でやるより、より多くの人とつながってやる方が大きな目標を達成できる。強さと優しさは、同時に育まれる。自分が困っていたり、悲しんでいたりにしたときに、優しく共感された経験が豊富な子は、自分の前に困っている人や悲しんでいる人がいたら、優しく共感してあげることが当たり前だと思うようになる。
- ・ 認めてあげる、受け入れてあげる。プラス思考でいく。「ほしいものがあってだだをこねる。」主張力がある。と思えるか。違うところで生かしてほしい。「今はだめ。」それでいい。

・ どうして、そんなことをやったのか。すべてに意味がある。子どもの行動はすべてに意味がある。意味を分かろうとすることが寄り添うことだ。共感ということ。過程について価値づける。しかし、悪いことをしたらしっかり「叱る」。

★「小学校に上がるまでに幼稚園時代にできること」

遊びひたる。遊びのなかで、学ぶ。言葉・つきあい方、我慢すること。「仲間に入れて」「いいよ」いやなことをされたら「やめて」といえる。

「あいさつ 返事 スーピタ」は、社会人になっても大切な作法。

どうすれば挨拶できる子どもになるか。簡単 親が挨拶する。

鏡の法則。人の姿鏡に映した自分の姿。人の対応は自分の対応。

★「友達どうしのけんか、親はどこまで介入」

けんかはコミュニケーションの第一歩。話は聞いてやる。鵜呑みにしない。「大変だったね」と受け入れてあげる。いじめとけんかは違う。いじめは一方的。心配だったら他の母親、先生に聞いてみる。一人で悩まない。

★「ほめられ方を知る」 ・ スーピタ ほめるタネをまく

犬のしつけ。家のピンポンがなると、すぐ吠えてしまう犬。なぜか、飼い主が「吠え

ちゃだめ」という。犬はそれを遊んでくれていると思う。だから、吠えている。そこに、盲導犬の訓練士が来た。訓練士は、「ほめられ方をこの犬は知らない」といった。悪いことは、ちゃんと指摘する。出来たらほめる。出来た瞬間を見逃さないことが大事。

子ども指導にも通じる話ではないか。瞬間のフォロー出来る様にしたい。

○手伝い

年少が、園庭で遊んだ後、イスの片付けをしていた。みんなで、イスを持ってきて、倉庫にどのように入れるかもめ始めた。この「もめ」が学びにつながる。コミュニケーション力がつき、ここで、みんなでお手伝いをやる価値がある。

良い行動をしようと努力し始めた途端(瞬間)にほめる。

簡単なことなのにしないのは、生活習慣の乱れを意味する。簡単なことだからこそ、徹底する意味があると考えている。

途端と徹底は、なかなかできない。しかし、それをやりつづけるのが、ポイント。

最後に小野省子さんの詩を紹介させていただきました。

愛し続けていること 小野省子

いつかあなたも
母親に言えないことを
考えたり、したりするでしょう

その時は思い出してください
あなたの母親も
子供には言えないことを
ずいぶんしました

作ったばかりの離乳食をひっくり返されて
何もわからないあなたの細い腕を
思わず叩いたこともありました
あなたは驚いた目で私をみつめ
小さな手を
不安そうにもぞもぞさせていました

夜中、泣きやまないあなたを
布団の上にほったらかして
ため息をつきながら
ながめていたこともありました
あなたはぬくもりを求め
いつまでも涙を流していました

私は母親として 自分はずかしいと思
いました
だけど、苦しみにつぶされることはなかつ
た
それは、小さなあなたが
私を愛し続けてくれたからです

だから もしいつか
あなたが母親に言えないことを
考えたり、したりして
つらい思いをすることがあったら
思い出してください

あなたに愛され続けて救われた私が
いつまでもあなたを
愛し続けていることを